

2022・12・3

# 杉田政務官 かばう首相も問われる

過去の差別発言の一部を謝罪、撤回したとはいい、大臣の指示によるものだ。本心から反省しているとは、とても見えない。政府の職を担う資質の欠如は明らかだ。かばい続ける岸田首相の姿勢が厳しく問われる。

松本剛明総務相がきのうの記者会見で、杉田水脈総務政務官に対し、就任前の二つの発言について、傷つけた方々におわびし、撤回するよう指示したと明らかにした。杉田氏はその後の参院予算委員会で、「内閣の員として、指示に従い、謝罪、取り消す」と答弁した。

女性差別撤廻に関する2016年の国連会議で、参加した在日ワフアンらを「チマ・チョゴリやアイヌの民族衣装のコスチュームさんまで登場」とした自身のブログへの書き込みと、月刊誌への18年の寄稿で、同性カップルを念頭に「子供を作らない、つまり「生産性」がない」

と評した部分である。

人権感覚を著しく欠き、多様性を尊重しないといった社会の流れにも逆行する。国会議員としての適格性も疑われる発言だ。

2日前の同じ参院予算委では、ブログについて「当時は一般人で、このような思想を持つことは仕方がない」と開き直っていた。生産性発言も、後に「不適切な配述」と認めたが、謝罪や撤回はしてしなかった。

今になって態度を一変させたのは、国会審議で野党の厳しい追及が続いたことから、火消しを急ぐ政権の意向に従つただけなのだろう。女性差別の存在を否定したり、男女共同参画を批判したりした別の発言などは撤回しておらず、これで批判をかわせると思つたら大間違いだ。

そもそも杉田氏を起用した首相の判断が間違つたと言うしかないが、いまだ擁護しているのが信じがたい。さのうも

「職責を果たす能力を持った人物と判断した」と述べ、過去の発言については、政治家として説明責任を果たしてほしいといふのが筋だ。

本人任せの姿勢に終始した。

杉田氏はジャーナリストの伊藤詩織さんから、ツイッター上

の中傷投稿に「いいね」を押され、名前感情を傷つけられたとして訴えられている。先日、東京高裁から賠償命令を出され、上告中だ。ネットでの中傷対策を担当総務省のナンバー3にふさわしいとも思えない。

杉田氏を国民党に引き入れたのは安倍元首相やその周辺だ。

過去2度の衆院選では、政党名で投票する比例中國ブロックの名簿で優遇され、当選を重ねた。首相には杉田氏の待遇で、

党内外の保守層にアピールする狙いがあったのかもしれない。

しかし、このままでは、「多様性のある包摵社会」という主張も看板倒れにならざるを得ない。

そもそも杉田氏を起用した首

相の判断が間違つたと言う

しかないが、いまだ擁護して

いるのが信じがたい。さのうも